

☆全ての工場・学校・学団・地域に
安保防衛の、実行委員会をつくれ！
☆大衆行動委員会の中に実力防衛隊を組織せよ！
☆基地包囲・荷頭制圧・工場占拠。
学団占拠のゼネストで安保を粉砕せよ！

前衛

第20号

☆安保ゼネストをプロレタリア日本革命の
突破口とせよ！
☆資本家政府打倒・米軍追放・沖縄人民解放。
労働者人民権力の樹立・労働者人民の武装！
毎週火曜日発行 千代田区飯田町三・一・六
発行前衛編集委員会 飯田町ビル 前衛社
発行人 杉村 宗 一 電 264・5079 振込東京 44538

反政府実力闘争から権力闘争へ 新左翼運動の破産と革命的前衛党

すなわち、かれらは、一
一月佐藤訪米、ニクソン・
佐藤共同声明で安保・沖縄
問題に決着をつけ、それを
一二月国会解散・総選挙で
国民に事後承認させ、それ
によって〇年代への長期
体制を固めるとともに、同
時にそれによって社共既成
指導部の反安保闘争を総選
挙までのカンパニア闘争に
追い込み、社共とのなれ
合い選挙闘争によって大衆
反乱戦線を政治的に孤立さ
せようとしたのであった。
したがって、この一二月
闘争で左翼反乱戦線に関わ
っていたのは、佐藤訪米に
対し都市反乱戦・都市人民

一〇・一二月闘争は、二
〇〇〇名の捕りよめたす
という蒲田・羽田闘争のさん
たんたる敗北をもつて終り
を告げた。
では、それはどのような
ものとして敗北したのか。
これに答えるためには、
われわれは、何が一〇・一
一月闘争に関わっていたか
をふりかえってみなければ
ならぬ。
一二月決戦は、まえに指
摘したように、「前衛」一
三三〇、政府支配階級の側
から企てられた決戦であつ
た。

十二月闘争はいかに総括されるべきか

一、蒲田・羽田闘争の敗北

敗争の大過咎を対置し、それによつて佐藤訪米に政治的打撃をあたえるとともに、同時にそれによつて総選挙目当ての社共カンパニア闘争をぶるこわし、かれらに対する左翼反乱戦線の政治的ヘゲモニーを確立し、工場占拠・学団占拠の安保防衛ゼネストへの展望を切り開くことであつた。

そしてそのためには、なによりもまず、そうした都市反乱戦の可能な場所と方法を選択し、国家権力・機動隊の組織された暴力が反乱のまえには無力な張り子のとらにすぎぬことを暴露することが必要であつた。

全国の革命的労働者学生諸君！
五月以来新解放・都市反乱闘争を遊説して廻りめぐりてきた安保共闘は、ついに十一月十六日、一万大衆の佐藤訪米粉砕・新解放東口伊勢丹通り制圧・都市反乱戦を実現することに成功した。

これは、昨年一〇・二一の新解放反乱闘争の水準を回復することができなかつたといえ、蒲田・羽田闘争の敗北に歯止めをかけ、ふたたびまた大衆的都市反乱闘争・都市人民戦争への巨大な可能性をきりひらいたことを意味する。

二、一三三〇一五一一六の新解放反乱闘争の成果を突破口に 都市反乱・都市人民戦争にむけて前進せよ！

安保共闘

全国の革命的労働者学生諸君！
だが、一六一一七日金曜日に戒厳体制をひき、蒲田・羽田で労働者学生反乱部隊の主力をつらたくたき、佐藤・ニクソン会談で安保再編を實現した日本の支配階級が、これを突破口にして、アジア安保、本土沖縄化の實質化攻撃を労働者人民大衆に全面化してくるであろう。

すでにその第一歩は、二十七日からの弾薬輸送阻止闘争として企てられている。

全国の革命的労働者学生諸君！
この弾薬輸送阻止闘争に決起せよ

二、新左翼諸派の破産と一歴史時代の終了

では、この敗北は何を意味するか
それは、六七七年末の蒲田・羽田闘争から
はじまった日本階級闘争の一歴史時
代の終了を意味する。
この時代は、戦後危機をめぐる階級闘争の終了以来、ふたたびまた日本に大衆反乱戦線が組織的に形成されはじめた時代であつた。
そしてこの時代を主体的にきりひらき主導したものは、明らかに新左翼諸派であつた。

それら、支配階級・国家権力がか
かかわらず、一二月の主力部隊は、
新左翼諸派にひきいられて羽田に向
つた。
その結果は、最初から明白であつ
た。

全国の革命的労働者学生諸君！
それが、蒲田・羽田地区で奥地に
閉つて敵の捕りよめた二千人の
同志諸君にこたえる唯一の道であり
一二月攻撃を突破口とする政府支配
階級の安保再編攻撃に反撃する第一歩
だ。

全国の革命的労働者学生諸君！
この弾薬輸送阻止闘争の焦点は、
ふたたびまた一一・二九にはじまる
新解放だ。

新解放に総括せよ！
一六の成果をふまえ、そこから
都市人民戦争への展望を切り開け！

この点は、新左翼諸派の大きな歴
史的功績として評価されなければな
らない。
だが、周知のように、日本の新左
翼諸派は、また平和と民主主義闘争
の限界内で、したがって社共既成指
導部のヘゲモニーのもとに陥つた。
六〇年安保のなかで、かれらの情勢
をのりこえた急進左翼として成長し
六〇年安保後の挫折を克服す、なか
で、社共既成指導部に対する急進的
反対派としてみずからを際立たせて
きた潮流であつた。

たから、かれらは、学生戦線では
日共・民青の主導する「平和と民主
主義」によりよき生活と学問のため
の自治会活動、全学連活動に対し
激進的自治会活動・激進的全学連活
動として対抗してきたのであり、ま
た労働者戦線では、総評民団の主導
する日本労働組合連合会・組合主義
的経済闘争と議会主義的政治闘争と
の日本のコンビネーションにに対し
職团的階級的組合運動、職团的反戦
運動として対抗してきたのである。
そしてこうした新左翼諸派の学生
運動・労働運動の政治的側面が街頭
における実力政治闘争にはかならな
かつた。

つまりかれらは、既成左翼の組合
主義的・議会主義的の反政府闘争・

これらの組織暴力の威力を人民大衆に
これみよがしに誇示するためのショ
ーに、二〇〇〇名の若い人間を犠牲を
提供したにとどまつたのである。
そして、一昨年末から昨年夏頃に
かけての蒲田・佐世保・三子・成田
闘争の段階ならいざしらず、六九年
ともなれば、こうした大衆運動ショ
ーによつて反乱戦線への大衆的決起
をうながしうる時代は、これら新左

これら新左翼諸派の破産と一歴史時代の終了

このことは、本年四月の四・二八
闘争においてすでに明らかであつた
にもかかわらず、新左翼諸派は、
この四・二八の「中央権力闘争」の
敗北をいまいちど大規模にくりかえ
すために全力をあげなければならな
かつたのである。

このことは、本年四月の四・二八
闘争においてすでに明らかであつた
にもかかわらず、新左翼諸派は、
この四・二八の「中央権力闘争」の
敗北をいまいちど大規模にくりかえ
すために全力をあげなければならな
かつたのである。

このことは、本年四月の四・二八
闘争においてすでに明らかであつた
にもかかわらず、新左翼諸派は、
この四・二八の「中央権力闘争」の
敗北をいまいちど大規模にくりかえ
すために全力をあげなければならな
かつたのである。

このことは、本年四月の四・二八
闘争においてすでに明らかであつた
にもかかわらず、新左翼諸派は、
この四・二八の「中央権力闘争」の
敗北をいまいちど大規模にくりかえ
すために全力をあげなければならな
かつたのである。

このことは、本年四月の四・二八
闘争においてすでに明らかであつた
にもかかわらず、新左翼諸派は、
この四・二八の「中央権力闘争」の
敗北をいまいちど大規模にくりかえ
すために全力をあげなければならな
かつたのである。

このことは、本年四月の四・二八
闘争においてすでに明らかであつた
にもかかわらず、新左翼諸派は、
この四・二八の「中央権力闘争」の
敗北をいまいちど大規模にくりかえ
すために全力をあげなければならな
かつたのである。

政策反対闘争に対し、街頭における実力反政府闘争、実力政策阻止ないし抗議闘争として対抗してきたわけである。

新左翼派の諸君が「中央権力闘争」、「政府中核攻撃闘争」、「佐藤内閣打倒闘争」等々と呼び、また現地実力闘争と呼んでいるものは、じつは、こうした実力反政府闘争、実力政策抗議闘争以外のなにものでもない。

そしてこうした実力反政府闘争、実力政策阻止闘争は、少くとも六八年初頭までは、社共既成指導部の組合主義的・職金主義的政治闘争の無力性を暴露し、かれらから労働者学生大衆をきりはずすうえで巨大な役割を演じてきた。

だが事態は六八年夏にはいるととも根本的に変化した。

まず第一に、六八年三月のドル・金交換の事実上の停止、五月のフランス一〇〇〇万労働者の工場占拠ゼネストは、戦後帝国内閣の世界的危機がついにじまってきたことを告げ知らせたからであり、また第二に、日大・東大を基軸に全国的に拡大したじまってきた学闘バリケード占拠闘争とそこから成長してきた全共闘運動は、日本でも、工場占拠・学闘占拠闘争とそれのための大衆闘争委員会運動が歴史の目標にのぼったことを告げ知らせたからである。

こうした大衆的工場占拠・学闘占拠闘争は、しかし、もはや通常の労働組合・学生自治会レベルの闘争ではなかつたし、またそれに対応する反政府闘争でもなかつた。

それは、われわれがくりかえし強調してきたように、たとえ占拠大衆のかかざる要求スローガンがどのようにならぬ、改良的なものであれ、その本質において、ブルジョア体制そのものに対する根柢からの反乱であつた。

あつた。

そしてこうした大衆的占拠闘争のなかから、そしてまたこれを鎮圧しようとする国家権力との闘争のなかから成長してくる工場・学闘の闘争委員会運動とそれの大衆的武装運動こそ、ソヴエト運動であり、ブルジョア国家権力に対抗する工場・学闘における大衆自己権力の構築運動、二重権力運動にほかならなかつた。

それは、まさにこのようなものとして、近代工業プロレタリアートの革命的権力闘争の原点であり、基礎であつた。

こうして、戦後帝国内閣の世界的危機の開始を世界的背景として六八年夏以降になると、ヨーロッパ階級闘争について、日本階級闘争においても、革命的権力闘争が歴史の目標にのぼつたのである。

このことは、既成左翼の体制内的な反政府闘争に対し実力反政府闘争として対決するだけではもはや不十分となつたこと、いまや政治闘争の主軸を反政府実力闘争から権力闘争へとつぎななければならなかつたことをいみする。

そしてこうした反政府実力闘争からの権力闘争への移行は、これまで新左翼の戦線的・階級的組合運動・自治会運動から全共闘運動・労働者・学生ソヴエト運動へと組織活動の主軸を移さなければならなかつたことに対応する。

しかるに日本の新左翼派は、さきにもふれたように、社共既成指導部の組合主義的・職金主義的政治闘争に対し実力政治闘争の急進左翼として成長してきた潮流にすぎなかつたのであつて、かれらのそれまでの反政府実力闘争、政策阻止実力闘争をより急進化する以外には、日本階級闘争のこうした革命的転換の要請に答える方法を知らなかつた。

このことは、これら新左翼派が日本階級闘争のより以上の発展につけてセクト的障害物になりはじめたことを意味する。

くりかえし強調すれば、六八年春の戦後帝国内閣の世界的危機の開始を背景にする日本階級闘争に要請されていたものは、もはや実力反政府闘争でも戦線的組合運動でも戦線的自治運動・全学連運動でもなく、まさにソヴエト運動であり、二重権力の構築運動であり、それを従前から促進し媒介するべき都市反乱運動であつたからである。

じつさい、六八年後半以降、これら新左翼諸君がなしたとげたことといえは、具体的現実的な大衆的学闘占拠闘争や職場反乱闘争に帝国内閣的再編対抗とか帝国内閣大学解体とか反大学とかいったような抽象的理念をもちこみ、活動家大衆をそれぞれ

三 反政府実力闘争から革命的権力闘争へ

だが、日本階級闘争の歴史時代が終つたといふことは、その新しい時代がはじまつたといふことにはほかならない。

では、この新しい時代に要求されているものはなにか。

その第一は、反政府実力闘争にのみならず急進左翼派のかわりに革命的階級闘争を日本反乱戦線の公然たる指導部として登場させることである。

これなしには日本階級闘争は一步も前進しないところにいる。いまや、日本階級闘争に要求されているのは、もはや戦線的組合運動や自治会運動を反政府実力闘争に集約することではなく、学闘全共闘運動や工場ソヴエト運動を二重権力運動に集約し、それを通じてブルジョア国家権力打倒の武装蜂起の前提条

のセクト的の反政府実力闘争に運んだために全力を尽くしたことであつた。

そしてこうした反政府実力闘争の政策を最初に掲げ知らせたものこそ本年春の四・二八闘争であり、それをふたたび大規模に再演したものが、一一・一六―一七の蒲田・羽田闘争にほかならなかつた。

それゆえ、蒲田・羽田闘争の敗北は、既成左翼の体制内反政府闘争に対抗して実力反政府闘争の急進左翼として成長してきた日本の新左翼運動の破産を意味する。

それは、まさにこのようなものとして、一昨年秋の羽田闘争以来、新左翼派によって主導されてきた日本階級闘争の歴史時代の終りを意味する。

全共闘運動の中核となる大衆的行動委員会の機能を各学闘で精力的におし進め、その地域的結合体をつくりださなければならぬ。

その第三は、職場反乱・工場突入・工場占拠闘争の精力的な推進である。

新左翼派の主導する反政府実力闘争が破産したといふことは、日韓闘争以来の反戦青年委員会が破産したといふことを意味する。

このことはまた、反戦青年委員会への街頭政治闘争がいまや工場・職場内に内化され、職場反乱運動・工場突入・工場占拠闘争へと発展させられなければならないことを意味する。

日本では、これまで工場・職場占拠闘争、バリケード闘争、突入闘争は主として、中小企業分野でゲリラ的・散発的に闘われてきたにすぎなかつた。

だが、大阪中電の職場反乱を突破件をつくりだすことだからであり、またこれは、共産主義階級闘争の公然たる登場には不可能だからである。

その第二は、全共闘の下からの革命的再編であり、それを基礎にする全共闘の革命的再編である。誰もが知っているように、現在の全共闘は、名まえだけの全共闘にすぎず、セクト共闘の別名にすぎない。

第四は、こうした工場・職場の反乱行動委員会の地域共闘と、学闘全共闘の地域共闘とのあいだのそのまた地域共闘である。

これが、今日わたちが着手するところである、そしてまた着手しなければならぬ「学学共闘」にほかならない。

こうした「学学共闘」をとらしてわれわれは、学闘反乱大衆の工場突入闘争を精力的に組織しなければならぬ。

なほまだ労働者戦線では、職場・工場反乱は階級闘争にあるからであり、またこうした「学学共闘」から学闘・工場占拠突入共闘、占拠共闘は成長してくるであろうからである。

第五は、こうした学学共闘を基礎とする都市密着点における都市反乱闘争・都市人民戦争の精力的な追求である。

一一・一六の新宿反乱闘争は、昨年一〇・二一の新宿占拠闘争の水準をいかに超えることができなかったといえ、蒲田・羽田闘争とはが、ふたたびまたこうした都市反乱闘争・都市人民戦争への巨大な可能性を証明した。

今日、学闘バリケードの再構築、工場・職場占拠闘争の発展の最大の障害となつているのは、国家権力・警察隊のバリケード破壊・大衆遊撃隊の無力感である。